<table>
<thead>
<tr>
<th>Title</th>
<th>カルロス三世時代(一七五九一七八八)のバルセローナ市における啓蒙と祭り：「聖体祭」のプロセッションを中心に</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Sub Title</td>
<td>The Englishment and religious festivals in the reign of Carlos III (1759-1788) : procession of the corpus Christi in Barcelona</td>
</tr>
<tr>
<td>Author</td>
<td>山道, 佳子(Yamamichi, Yoshiko)</td>
</tr>
<tr>
<td>Publisher</td>
<td>三田史学会</td>
</tr>
<tr>
<td>Publication year</td>
<td>2008</td>
</tr>
<tr>
<td>Notes</td>
<td>論文</td>
</tr>
<tr>
<td>Genre</td>
<td>Journal Article</td>
</tr>
</tbody>
</table>
カルロス三世時代（二七九～二七八）のバールセローナ／山道佳子

市における啓蒙と祭り 『聖体祭』のプロセッションを中心に
十八世紀においても根強く残っていたことを知るなら、スパインは近世史のみならず、十九世紀以降の社会と教会の関係を考えていく上で、大きな成果であるだろう。他に王権および司教によるパロックの特典への攻撃において、エリート文化と民衆の対峙はどの部分でどのように起こっているのか。第二に教会権力（司教および聖堂参事会、市参事会）の王権の間のコンフリクトは、祭りにおいてどのように現象化しているのか。第三に都市住民はどのように祭りに関わり、楽しんでいたのか。当時の全ての祭りを対象にして現実を、都市生活に密着した形で分析することができ、また市参事会という領土的な立場の目を通して見ることで、スペインにおいては変えていった民間信仰の世界が、スパインにおいてはどのように変化してきたかを理解することができる。
日本の東海岸の沿岸部で、海産物の採取が盛んに行われています。特に、されたしやカレイ、マグロ、サーモン、エサイなどの海鮮が人気です。これらの海産物は、鮮度がよく、栄養価も高いことから、多くの人々が愛好しています。また、これに伴って、様々な調理法が開発されており、寿司、てんこ盛り、すきやき、やきとりなどが代表的です。
カルロス三世時代（一一七八二一一七八六）における啓蒙と祭り

第一章　十八世紀スペインの都市における祭り

ここではまずカルロス三世期のパルセローナにおける祭りについて考察する。十八世紀後半スペインの都市において祭りが行われていたことは既に述べた。しかし、それが一体どのようなものであったか、その内容や形式については不明の点がたくさんある。この問題は、スペインの歴史を理解するうえで極めて重要である。この講演では、十八世紀後半スペインの都市における祭りについて、その歴史的背景と文化の影響を考察しよう。
を破るものとして認識されるが、宗教祭日には数えられ
ない個々の教区や信心会の守護聖人の祭りや定期市、雨
乞いや王族の病気といいながら発見的な理由による祈福や祈
願行列などが加えられ、スペインの大規模な都市において
行なわれていると考えるのが妥当であろう。例えばバレンシア市の場合、年明けの二月だけ
を見てみても、全ての教区とカトリックで範囲を拡げた祭りが行われ
る。一月一日にサンタ・マリア・ダル・マル教区では
特に盛大に新年が祝われ、一月七日からの日曜には「十
字軍書物」の発行の騎馬パレードが市内を回り、一月七
日はサン・アンティの日にはカトリックのサン・ジャン
ユスト教会で飾り立てた馬とローバの行列があっ
て、新教者聖マリアのプロセッションがあり、二月一日
には「聖母祈祷の祝日」の響砲配布、二月十二日の聖女
アドラリア（市の守護聖女）の日はカトリックから司教
や市参事会員も参加する大規模なプロセッションがあり、舞踏会や宴会に向
かった。前後に当然カーニバルがあり、舞踏会や宴会に向
かう仮装した男女や馬車が街道を埋める。小麦や大麦の
発芽のために雨が必要なこの季節に干ばつが続くことも
あった。

そこでこういった祭りは全てが（少なくとも表向き
は）カトリックの礼拝や教義によるものであるから、カトリ
ックの礼拝を含むものだったことを忘れがちである。カトリ
ックの礼拝を含むものだったことを忘れがちである。カトリ
ックの礼拝を含むものだったことを忘れがちである。カトリ
ックの礼拝を含むものだったことを忘れがちである。カトリ
ックの礼拝を含むものだったことを忘れがちである。カトリ
ックの礼拝を含むものだったことを忘れがちである。カトリ
ックの礼拝を含むものだったことを忘れがちである。カトリ
ックの礼拝を含むものだったことを忘れがちである。カトリ
ックの礼拝を含むものだったことを忘れがちである。カトリ
図版17 20世紀マドリードにおける「聖体祭」のタラスケ（1663年の図版）

七（四○六）

721年に食べは、五月の祭礼「マヤ」の規則および
それにまつわる祝祭の禁止（七二九、七三○、七三二),
前夜と聖土曜日にわら入形を燃やすことが禁止（七三二）.
聖ヨハネや聖ベテロの夜にダンバリンやガラ
やパグパイプなどの「組野」で、不入りな
「edical」楽器をならすことがある禁止（七三五）。

四については、グレゴリオ・マランス、パブロ・デ・
オラビーニ、ガスパール・メルチェール、デ・ホベリャ
など、アランダ伯の啓蒙主義政治家たち、不純な信
仰を広める元であり、時間と財産の浪費であるとして、
信仰への規律を試みた。多くの報告や警告が出された
後、一七八六年には本来の教義を守る必要がある
会、牛を殺す闘牛の禁止（七八五）などがあげられ
る。
なかたとされる。

このように、カルロス三世期の王権は、王国内の秩序維持を目的とした祭りや騒ぎへの制限をほとんどせず、それまで王権の所掌事項と考えられていなかった教会典礼の内容にまで介入し、法令を通達によって民衆の信仰の実践や慣習を変更させようとしたのである。王権が嫌ったこれらの実践や慣習は、国王やその周辺の啓蒙主義の思想家・政治家たちにとっては、まさに「迷信」の「逸脱」であり、「粗野」で「おかしな」文化であると映った。このような価値観は社会のどの層まで共有されたものなのか、また、こういった王権による規制は実際にどのように実施されていったのか、次章以降、バルセローナ市を対象として考察していきたい。

第二章 バルセローナ市における啓蒙と祭りを巡る対立

ここでは主にジェゼッ・クリメンがバルセローナ司教を務めた九年間（一七八六～一七八五年）を中心に、バルセローナ市において啓蒙と祭りを巡る対立がどのように顕在化したのかを、市参事会の議事録を通じて観察する。先にも述べたように全ての祭りについて網羅的に述べる点を整理したい。前提として、当時の地方権力としての市参事会の性格を理解しておく必要があるだろう。中央権力と対立し、四六での敗北後、フェリペ五世によって廃止され、それまでの参事会会長はみな身分を失って、亡命するか、処刑された。以後、親プルボン派の地元貴族の中から王権に任命される四人の終身議員からなる市参事会に Suspended-Infantiledness が全国レベルでの地方行政改革により、住民の間接選挙権によつて選ばれる。貴族ではない層から選出が可能な「住民代表」（プロクラドラール・シンデイド・デル・コムン）四名（人口千を超える都市の場合）が加わり、権力構造は若干変化が起こっていったことを指摘しておきたい。
二 ～プロセッションなどを位置を巡る司教と参事会との対立～

当時枢指の改革派聖職者として知られていたジュゼッペ・クリメンがパルセローナ司教に任じると、非常に厳格に自身の考えを通そうとする司教との、これまでの慣例や特権を当然の権利として守ろうとする参事会の間で、あらゆる機会に対立が生じる。まず、クリメンが司教として着任した直後の一八六七年二月十二日、パルセローナ市の守護聖人でカドゥラ尔に祀られる聖女ウラリアの日のプロセッションで、松明を持った司教の従者四人が、司教のひざ掛け布などを持った聖職者と共に聖女像を乗せた天蓋（六人の参事会員が運ぶ）のすぐ後に続き、残念の参事会員がその後につかなかれならなかった。これ以後プロセッションでの位置のない、聖週間の「枝の主日」のシュロの配布、佈の順番について、同様の問題が発生する。腹に据えかねた参事会は、法律家たちに教会法や王権の先例を調査するが、同様の問題が発生し、二五人からなる護衛の正規軍の小隊が、司教たちの一団を包囲する。このようにして、司教と参事会との対立が明確になる。また、司教の従者たちは、司教のひざ掛け布などを持った聖職者を伴って天蓋のすぐ後に続くことが出来ず、従者を伴って天蓋のすぐ後に続くことが出来た場合、参事会は司教に従う聖職者・従者・下男よりも前におかれるべきであるという専門家たちによくないが、司教と参事会との対立が明確になる。これ以後プロセッション全体の並び順につけられている、聖週間の「枝の主日」のシュロの配布、佈の順番について、同様の問題が発生する。腹に据えかねた参事会は、法律家たちに教会法や王権の先例を調査するが、同様の問題が発生し、二五人からなる護衛の正規軍の小隊が、司教たちの一団を包囲する。このようにして、司教と参事会との対立が明確になる。また、司教の従者たちは、司教のひざ掛け布などを持った聖職者を伴って天蓋のすぐ後に続くことが出来ず、司教と参事会との対立が明確になる。
七月七日は全面的に禁止している。司教の攻撃の矛先は多くの祭りや宗教実践に対して向けられるが、最も大きな物議を醸し出したのが八日間続く祭りの間、大掛かりで演劇的なくつものプロセッションが、司教布告によって時間厳格に守られようとした後、一月十四日に司教は、聖週間のプロセッションにおいては、もう八日間続く祭りの間、大掛かりで演劇的なくつものプロセッションが、司教布告によって時間厳格に守られようとした後、一月十四日に司教は、聖週間のプロセッションにおいては、

当時のバレルノーラ市において最も盛に祝われた祭りは、春の「聖週間」と夏の「聖体祭」だった。どちらも八日間続く祭りの間、大掛かりで演劇的なくつものプロセッションが、司教布告によって時間厳格に守られようとした後、一月十四日に司教は、聖週間のプロセッションにおいては、

司教布告による「聖体祭」のプロセッションへの攻撃は、春の「聖週間」と夏の「聖体祭」だった。どちらも八日間続く祭りの間、大掛かりで演劇的なくつものプロセッションが、司教布告によって時間厳格に守られようとした後、一月十四日に司教は、聖週間のプロセッションにおいては、

聖体祭（コルボス・クリスティー）は、リュティヒ（ベルギー）の聖女ユリアヌの啓示により、キリストの聖体そのままへの感謝を表現するために始まった祭りで、復活祭から六日後の木曜日（およそ六月の中旬から下旬）に行われる。聖週間が悲しみに満ちた荘厳な祭りであるのに対し、歓喜に溢れ、その表現として踊りや楽器、花、動物や巨人の人形などが賑やかに登場するのが特徴である。一二六四年に教皇ウルバノ四世により制定され、カトリック教会全体に広がったのが一二六六年とされるが、バレルノーラでは一二〇年に聖体祭を祝った「百人議会」の記録があり、ヨーロッパの中でも最も古くからこの祭りを行っていた都市のひとつとされる。なお、スペイン文化に関する複数の邦語文献が「聖体祭」の起源はバレルノーラにあると説明している。
図版2：聖体祭のプロセッションの図（19世紀初め、バルセローナ市）
Joan Amades, Costumari Catala, el curs de l’any, Barcelona, 1982, vol. III, p. 16'の図版より、筆者が加工（横長の史料だったため、プロセッションの並び順が分かるように切り取って並べ、解説を加えた）。
このことは明らかでない、祭りの行事として
花びらで飾られたサン・ジャームに参列する前祭、聖体祭
場に名士たちが集まりミサに参列する前祭、聖体祭
祭りは各教区から出るプロセッションを続くが、何
日のカドプラルのミサに参列する前祭、聖体祭
場を練り歩くプロセッションが行方の中心である。
中世パレスチナの聖体祭については、アラゴン王
ルフォン五世を迎えた一四三二年の祭りの詳細な記録
がパルセロナ聖体祭について、アラゴン王
とその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面などをかたどった様々な山車（あるいは人形や仮
装による場面の再現）、「十二使徒」、「聖体」と司教
装をその従者、白い旗を、天使と悪魔の戦い、二人の
聖女ウラリアとカドプラルの旗、各教区の旗、ガルド
の場面を
はずの『聖体』はほとんど脅され、われわれが本稿で問題とするパレスローナの『きわめてパニック的聖体祭のプロセッション』が成立しているのである。

その要素、それはでは司教クリメンが許容することのできなかった一七〇年代から七年年代頃のパレスローナの聖体祭のプロセッションとは、どのようにものだったのだろうか。

まず司教の攻撃を受けて、一七〇年代中葉に市参事会が地方法院に提出していた要素を確認してみたいと思う。そこでの話題となっているのは『羊文で取り上げている順に『ライオン』『王』『使徒』『天使』であるが、その他の動物で馬様形があったことがわかっている。馬を除いた動物で巨人人は、張子でできた大きな人形の体の木枠を肩に担いで進む仕組みになっており、馬は、人形の胴体が肩のごく片側に軽くになっている。巨人人形は現在のもので三メートルから四メートルを超える高さがあり、人が担いだときにはさらに五〇センチ程度高くなる。

カルロス三世時代（七八九）～（七八八）のパレスローナ市における啓蒙と祭り

動物・怪物人形

まず市参事会が最も伝統的な要素としてあげているのは『ライオン』である。最もも重要な聖体として市当局のシンボルであり、次第に権力と正義の象徴として市当局のシンボルとなり、一七〇年度の時点で聖体祭のシナリオであるが、鷲の踊りは大いへん難しかったので、伝統的に厳しいオーディションを経て選ばれたらしい。この鷲は冠を被っているのが『ライオン』で、王権のシンボルでもあるためだという。ライオン人形の胴体には本物の革を貼っていたため、維持と運営が『革なめし職人ぎりぎり』
写真1：バルセロナの「聖体祭」の動物・怪物人形（ただし写真は現在のもの）
出典：Codorní, Xavier, Altsissims Senyors, nobles besties, Barcelona, 2001, pp.98, 103, 95, 106, 91, 110, 119.（頁数は上記写真の左から右、上から下の順に対応）
ルドの担当となり、ギルドの代表者が並ぶ中、革な
めに職人ギルドの旗を掲げて前を進めるようになっ
たものととどめる。ギルドの人形となった騎士から滑稽な役どころとな
った。おかしな嘩き声を出したり、口を開けて子供たちが
入れる茱萸を集めたりしたようだ。これらの人物の表象
は地元へ重層的で、例えば“鷹”は福音の聖ヨハネを
“ライオン”は聖マルコをも表すが、そもそもおかしな
嘩き声を出ったり踊りをするということから考えて、民
衆がこれらの動物に崇拝対象としての使徒の姿を見出し
ていたとは考え難い。

プロセッションの先頭に立って、道をあけさせる役目
をしていたのが、牛とラバーの人形である。共に
起源はキリスト生誕の山車から独立したものと考えられ
るが、いつから独立した存在になったのかはわから
ない。花火や爆竹で道を開けさせる役目を担ったようだ。市
参事会の常連で、ラバは聖ルカをも表し、ラバはバドゥ
アの聖アントニオの逸話でラバが聖体に踊ったという逸
話に基づかせてているが、こういった表象が当時
意識されていたとは思えない。ラバは毛縄物毛織物
の担当だったとのことである。

カルロス三世時代（七五九～七八八）のバーレローナ市における啓蒙と祭り

二〇（四〇五）
《巨人人形と仮装》

これらの動物（あるいは怪物）人性に加えて、祭りを
見る民衆に何よりも愛されていたのは巨人人形だった。
これもダビデとゴリアトの戦いなど、古いプロッセション
の中でも大きな人物が登場する必要性から生まれるという形だ
っが、十六世紀頃から現在のようないぼる人形を担ぐ方
式になった。と同時に長いスカルトをはいた人が竹馬に乗るという形だ
る女性の巨人人形が生れ、カタルニャの歴史における女性の巨人人形の衣裳や髪型はその年の流風を反映するとい

《モロ・イ・クリスティアーノス》（モロ人とクリス
スト教徒、そしてこの戦いが独立した祭りになっている
都市も多いが、パレスローナでは生まれている。
都市の祭りは、聖体祭に当たる祭りは、お互いの祭りの交差に
担ぎ出されただけでなく、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参加
したという。それらの祭りは、お互いの祭りの交差に参
人々が負担するように取り決められている。それらの象徴的な意味はすでに失われていると言えるが、プーラロッセーションの中にはいくつかのこっていった民俗舞踊が含まれている。

一方、パルセローナの場合には、「こん棒の踊り」の他にどのような踊りがなされていたのかを特定することはできなかったが、十八世紀末のセビリアでの聖祭について回想したプランコ・ホワイトの記述の中には、「パレルシアノス」コンセーとある。「パレルシアノスの踊り」については十九世紀パルセローナのプロセッションを描いた図版にもしばしば見受けられること。「シャコンヌーという士のノルベルト・カイモの旅行記の中に言及があることから一七八五年にパルセローナのヒエロニムス会団の演奏曲「巨人形が民衆の歓声で踊る」という曲名が記載されており、カイモによれば、「驚かれる」と見物人は大騒ぎをする—巨人形が民衆の歓声で踊る」という曲名が記載されている。
由で、十六世紀には禁止もされている。こういった踊り
や音楽は、聖体祭本来の趣旨とは全く関係ないものであ
り、プロセションのすべてとは言えないとしても、そ
のかわりの部分が、宗教行事としてよりは、年に一度の
特別な儀式として楽しんでいたと考えるのが妥当であ
ろう。

さて、ここに紹介した様々な要素の後ろに、市参事会
員の担ぐ聖体、司教と司教の杖や衣装を持つ従者、残
りの市参事会員が続き、最後に正規軍の守備隊がついた
（図版の参照）。先に述べたように、巨人やクスクな
どの人形が聖体祭のプロセションにあらわれるのは、従
って間違いない。これらの形が聖体祭のプロセション
の祭りの一部として行なわれるのは、おそらく十六世紀
のトロドが例を見ると、行列の先導はタラスクラが
務め、軍の守備隊と信者会の旗の後には、様々な種類の
民俗舞踊と巨人人形の踊りが続き、それ以外は縄張り
の市民とその民衆に及ぶ聖職者、聖体、大貴族、王、大司教などか
なり多い、紛れもみたような宗教的要素を含んでいる。
また、先にも挙げたプランコ・ホワイトの筆による
セビリャの聖体祭でも、行列自体はトロドの場合と同
じような形をとっている。
巨人物形と動物人形を巡る攻防

このような聖体祭のプロセッションに参加した市民、聖堂参事会の指導に対して、司教は、一七七七年八月九日に市参事会に対して、

「聖体祭」のプロセッションが市民の問題として取り上げられており、司教は、直接市民に当面の問題を提起し、市民の関与を求めるよう努める。このことは、市民の参加が重要であることを示している。

先に述べた「住民代表」の役割を果たし、市民の参加を促すことが重要である。司教は、市民の参加を求めるが、市民の関与が不十分であることを指摘している。

ゴルロス三世時代（一五七九～一七七八）のパルセローナ市民における戦略と参政
間会議に対して、「実際にプレッシャーの中で行われている行為には、司教が言うように不敬虚だと非難されなければならない」と告白しているが、同時に市参事会に対して、「ライオンの鳴き声など、パンの爆竹など、観客の要請に応えての驚きの踊り」「教室の中での踊り」「聖人の愚弄」は止めるように命じている。

この決定では納得しなかった司教は、マドリードの宮廷に力を持っていった友人たち（おそらく法務大臣マヌエル発動が含まれる）を通じて働きかけた。王が出ることを禁止するように、「対立する」という通達が出され、王を含む司教クリスチャンからも反対された。四月二十八日に市参事会は国王とアラウンダとの対立を含むことを要求し、五月十二日に地方議会から市参事会に対してを伝える書簡を送る。アランダから返答があり、訴えは認められなかった。

このパルセローナ司教クリスチャンの通達は、パルセローナのみならず、スペイン全体に影響を及ぼすことになった。

このような聖体祭のプレッシャーをめぐる司教と市参事会の間の（王権や聖堂参事会をも巻き込んだ）対立を見るとき、十八世紀パルセローナ地方権力は十分に変更するための条件を満たしていた。十八世紀のプルボン家の貴族によって構成されており、王権にたつような行為には出ないもの、国王カルロス三世およびクリスチャンに代表されるような改革派聖職者が推進しようとした啓蒙主義改革に対して、決して同じ価値観を共有していたのではないことがよくわかる。一般にこれの支配階層も、近世以降のスペイン史の中で、カルトゥーヌの時代は大いに変化した時期だと考えられれているが、市参事会の地元貴族たちは、時に住民の声を無視する傾向があったことを示している。
を代弁し、同市の伝統である聖体祭のプロセッションを
守ろうとしているのである。

しかしながら、先にも述べたように、「聖体祭」はカトリック教会共通の祭りであり、祭りの要素にも、個々の要素の組み合わせやパターンは別として、特にバレンシア市独自のものがあったという訳ではない。それでは、市参事会が守ろうとしたバレンシアの聖体
祭の伝統とは、いったい何だったのだろうか。

先に参照した一九七〇年十月の陳述書を丁寧に読ん
dてみると、特に強調されているのは、バレンシア市で聖
体祭が祝われるようになったのが非常に古く、十四世
紀のことであるということ、そしてプロセッションの各要
素がいずれもカトリックの教義の中で正統な意味を持ち、
由緒正しく、教会当局によってきたと許可を得ている
ことである。同市特有の文化であるところで、

聖体祭のプロセッションに巨人が出るのはごく一般的
で、スペインの町や村で巨人がプロセッションに出る
ところは少ないらしいであり、他の町や村では「小人」
や、もと迷信的な人形が出る場合も少なくと述べる。

さて、ここまで述べてきたような王権や司教による祭
りに対する規制が、実際にはどのように実施され、また
それらの規制によって祭りはどのように変化したのか、
引き続きバレンシア市の「聖体祭」のプロセッション
について、見えていくことにしよう。聖体祭は同市で行わ
れていた多くの祭りの中でも、当日のプロセッションと
八日目の食事会の費用市の予算でまかなわれていた、
かなり特殊な位置づけの祭りだった。これらの支出につ
いては市参事会に会計報告が出されているので、実際に
カロス三世時代（七五九－七八八のバレンシア市における啓蒙と祭り）

第三章　王権や司教による規制は祭りを変化させ

せたのか

八七（四二）
どのようなプロセッショニングが行われ、参加する人形や装飾等でのような変化があったのか、議事録に添付されている毎の会計報告を元にして再現してみたい。

（表1）から（表3）は、カルロス三治世の三〇年間について、毎年の会計報告を表にして比較したものを元に、支払先（名前と職業、肩書き）、名目、金額について当時の読み方を特定するのは不可能なので、カタログの語りとは異なるものを、当時のカタログで日常的に使われていた貨幣単位は、当時のカタログで日常的に使われていた貨幣単位を表にしたものがである。

これらの表をたとえば、街を警備することで、聖体祭当日の巡行列のための支出が多岐にわたる点から、市参事会にとっても職人たちは、ケントの銀貨を銅貨の数を比較するために、銅貨の数を比較する。

（表1）の左に振った番号と項目（概要）は比較的便宜上筆者がつけたもので、項目の並び順も年毎に違うため、若千並べ直している。また人名の表記は、全員について当時の読み方を特定するのは不可能なので、カタログの語りとは異なるものを、当時のカタログで日常的に使われていた貨幣単位を表にしたものがである。

これらの表をたとえば、街を警備することで、聖体祭当日の巡行列のための支出が多岐にわたる点から、市参事会にとっても職人たちは、ケントの銀貨を銅貨の数を比較するために、銅貨の数を比較する。

（表1）の左に振った番号と項目（概要）は比較的便宜上筆者がつけたもので、項目の並び順も年毎に違うため、若千並べ直している。また人名の表記は、全員について当時の読み方を特定するのは不可能なので、カタログの語りとは異なるものを、当時のカタログで日常的に使われていた貨幣単位を表にしたものがである。

これらの表をたとえば、街を警備することで、聖体祭当日の巡行列のための支出が多岐にわたる点から、市参事会にとっても職人たちは、ケントの銀貨を銅貨の数を比較するために、銅貨の数を比較する。
<table>
<thead>
<tr>
<th>項目（概要）</th>
<th>支払先（人名）</th>
<th>身分・職業</th>
<th>名目</th>
<th>リブラ</th>
<th>エルドベリオ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>王・使徒・天使（仮装）</td>
<td>カテドラルモィフォル</td>
<td>カテドラル司祭</td>
<td>24人の王と12使徒、天使および行列に参加した聖職者の世話</td>
<td>18</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>松明・アウラリアの旗・聖体顕示台</td>
<td>パブロ・クジャス</td>
<td>カテドラル聖具室係司祭</td>
<td>総行行列で24人の松明、八日目の行列で12人の松明を運んだ侍祭者ひとりに14スエルドずつの報酬（7リブラ4スエルド）、聖女アウラリアの壷持ち（7リブラ）、聖体顕示台持ち（1リブラ4スエルド）</td>
<td>15</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>馬人形・悪魔・牛人形</td>
<td>パブロ・プルガラ</td>
<td>当番市参事会員の小間使い</td>
<td>総行行列で馬人形を運んだ12人の少年にひとり5レアルずつ（6リブラ）、小悪魔の12人の少年に5スエルドずつ（3リブラ）、悪魔の責任者に10リブラ（ママ）、牛人形を運んだものに1リブラ</td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>巨人人形とドラゴン</td>
<td>ジュゼッペ・タラデリス、ジャーユ・ジオル diversas</td>
<td>拼字で巨人人形の踊りの報酬、ドラゴン運んだ報酬、音楽を含む</td>
<td>16</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>爆竹</td>
<td>パブロ・シモーニ</td>
<td>花火職人</td>
<td>行列に参加したドラゴンと悪魔のための爆竹代</td>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td></td>
<td>ガブリエル・デリ</td>
<td>カテドラル礼拝堂財務管理司祭</td>
<td>総行行列に参加した音楽隊の報酬</td>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>音楽</td>
<td>フランシスコ・バリャス</td>
<td>当番市参事会員の財務管理人</td>
<td>楽器演奏の報酬</td>
<td>20</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>音楽</td>
<td>フランシスコ・カサノバ</td>
<td>市の小太鼓隊隊長</td>
<td>楽器演奏の報酬</td>
<td>14</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>音楽</td>
<td>ハイム・ロスケリア</td>
<td>市の吹奏楽隊隊長</td>
<td>楽器演奏の報酬</td>
<td>15</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>音楽</td>
<td>ベドロ・コンタソーニ</td>
<td>市のトランペット隊隊長</td>
<td>楽器演奏の報酬</td>
<td>16</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>飾り</td>
<td>パブロ・ブラヌス</td>
<td>大工</td>
<td>市庁舎正面の飾り・総行行列の順路に設置した大鍋・布などの飾り</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>飾り</td>
<td>ジュゼッペ・ジェリーニ・イ・ビニャス</td>
<td>建築業者</td>
<td>総行行列の順路に飾る幕額</td>
<td>20</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>飾り</td>
<td>ハシント・カルム・ファキン</td>
<td>市の役人</td>
<td>同様の祭りの世話を行った報酬</td>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>飾り</td>
<td>D. イグナシオ・デ・グラエル、D. ジュゼッペ・カジェタ・デ・アル</td>
<td>当番市参事会員</td>
<td>ひとり5リブラずつ</td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>飾り</td>
<td>ジョセフ・ルファエスタ</td>
<td>市参事会書記代理</td>
<td></td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>装飾</td>
<td>フェリックス・カンプリョニク</td>
<td>市参事会財務管理人</td>
<td></td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>装飾</td>
<td>イグナシオ・デ・プリオル</td>
<td>市参事会会計代理</td>
<td></td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>装飾</td>
<td>パブロ・プルガラ、ジョゼフ・ボラダス</td>
<td>当番市参事会員の小間使い</td>
<td></td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td>装飾</td>
<td>4人の金髪杖奉</td>
<td>4人の金髪杖奉</td>
<td></td>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>装飾</td>
<td>ジョセフ・イベルン</td>
<td>戦士</td>
<td>巨人の踊り手とドラゴン運んだ者の足の靴代（1足9レアル）</td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td>装飾</td>
<td>パブロ・フォックス</td>
<td>杂費</td>
<td></td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td>項目</td>
<td>件名</td>
<td>件名の漢字</td>
<td>説明</td>
<td>数</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>-----</td>
<td>------</td>
<td>-------------</td>
<td>-------</td>
<td>-----</td>
</tr>
<tr>
<td>22</td>
<td>識人形</td>
<td>パブロ・プラナス・メノール</td>
<td>魔獣の conseils手</td>
<td>識人形の rgb色、 heure・山羊革の代金など</td>
<td>41</td>
</tr>
<tr>
<td>23</td>
<td>識人形</td>
<td>ジョセフ・ボラデラス</td>
<td>当番市の理事会員の小間使い</td>
<td>世襲祭前日、巨人的服装手とドラゴンの運び手に出した飲み物代</td>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>24</td>
<td>卡隆区司令官</td>
<td>ハブロ・ブルガラ</td>
<td>世襲祭前日にミナ公爵夫人に献上した鉄瓶細工入り花瓶の代金</td>
<td>恥をこだわる、世襲祭前日をコンプに献上した金瓶細工入り花瓶の代金</td>
<td>42</td>
</tr>
<tr>
<td>25</td>
<td>同上、花東</td>
<td>マリア・テレサ・デ・テシダー</td>
<td>モンテシネソ女の修道院長</td>
<td>同上、緑の花束代</td>
<td>50</td>
</tr>
<tr>
<td>26</td>
<td>巨人人形の装飾</td>
<td>フアン・マラハス</td>
<td>美容師</td>
<td>巨人人形の装飾の管理</td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>巨人人形の装飾</td>
<td>ジョセフ・ソレーテ</td>
<td>パラグアル</td>
<td>巨人人形(女)の装身具の調整代</td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td>馬女・巨人人形装飾</td>
<td>ハイネ・サンフアン</td>
<td>仕立職人</td>
<td>馬女形の旗飾り8本、巨人人形(男)のスカート</td>
<td>7 2 6</td>
</tr>
<tr>
<td>29</td>
<td>飲み物・菓子</td>
<td>ドミンゴ・アルティエリ</td>
<td>水売り</td>
<td>巨人祭と日目の祭りに出した飲み物とアルコール代</td>
<td>49 16</td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td>飲み物・菓子</td>
<td>カレ・オノフレ・トリニャ</td>
<td>パン職人</td>
<td>同上、クッキーと菓子パン代</td>
<td>18 16 6</td>
</tr>
<tr>
<td>31</td>
<td>飲み物・菓子</td>
<td>マルティーノ・ブーイ</td>
<td>菓子職人</td>
<td>同上、チョコレート他の菓子代</td>
<td>234 4</td>
</tr>
<tr>
<td>32</td>
<td>香子</td>
<td>テレサ・モンタナ・ブラ、アルノ・クラッサス</td>
<td>香子職人</td>
<td>香子の葉で作ったさまざまなデザインの香子</td>
<td>328 4 7</td>
</tr>
<tr>
<td>33</td>
<td>蝶仙の紹介など</td>
<td>フランシスコ・シモーネ</td>
<td>絵描き</td>
<td>巨人女体の絵、11体のマヤ人形の髪部作成、市が各教会に配布する蝶仙の絵を描いた報酬など</td>
<td>25</td>
</tr>
<tr>
<td>34</td>
<td>巨人人形の装飾</td>
<td>ヘラルド・ロピラ</td>
<td>布屋</td>
<td>巨人人形の装飾に使用した薄手の布とリボン代など</td>
<td>42 14 9</td>
</tr>
<tr>
<td>35</td>
<td>蝶仙</td>
<td>ジョセフ・サンマルティーニ</td>
<td>蝶仙職人</td>
<td>市が各教会に配布した蝶仙代金</td>
<td>538 5 9</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>1624 6 3</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注：右方の数字は左方の数字に対する割合を示しています。
<table>
<thead>
<tr>
<th>参照番号</th>
<th>種目 (概要)</th>
<th>1765年</th>
<th>変更内容</th>
<th>1772年</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>王・使徒・天使 (仮装)</td>
<td>1760年からの変更点</td>
<td>支払先と名目と金額</td>
<td>ジュゼップ・セラ (カテドラル司祭)、同様とともに、市が配布した36本の大旗揚げを進呈した36人の侍祭の世話主をした報酬</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>松明・アラリアの旗・聖体崇拝台</td>
<td>支払先の人物</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>鳥人形・悪魔・牛人形</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>ジョセフ・ボラデラス (当番市参事会員小関使い)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>巨人人形とドラゴン</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>ニコラス・ガリサンス、アントニオ・パジョーネとその仲間達</td>
<td>支払先と名目と金額</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>爆竹</td>
<td>支払いの変更と名目追加、額の変更</td>
<td>ジョセフ・ボラデラスへ、爆竹附に加えて、巨人人形を持った花火代、計8リブラ10スエルド</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>音楽</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>ベドロ・ムニョス (小太鼓隊長)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>カジェタノ・モリェット (盲人弦楽隊財務管理人)</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>16リブラ</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>トマス・アラレット (トランペット隊隊長)</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>装飾</td>
<td>金額</td>
<td>11リブラ4スエルド</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>ウラゲー・ジュリー (建築匠親方)</td>
<td>支払先の人物と金額</td>
<td>バプロ・コメリャスに12リブラ</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>支払先の人物 (当番のため)</td>
<td>D. ビドリオ・サンフアン、D. ジョセフ・デ・ボンシケ、ひとり15リブラ</td>
<td>支払先の人物 (当番のため)</td>
<td>サンマナット候爵、D. ロレンソ・デ・マサネス、ひとり5リブラ</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>ラファエル・アルビアーネ (市参事会会計係代理)</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td>金銭状</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>巨人・ドラゴン掲手の靴</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td>錢費</td>
<td>金額</td>
<td>53リブラ7スエルド2ディネロ</td>
<td>37リブラ2スエルド</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| 22 | 驕人形
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>23</td>
<td>金額</td>
<td>40リブラ</td>
</tr>
<tr>
<td>24</td>
<td>支払先の人物と金額</td>
<td>アントニョ・ロカシオ (花屋) 41リブラ12エルド3ディネロ</td>
</tr>
<tr>
<td>25</td>
<td>同上、花屋</td>
<td>献上手相手と金額</td>
</tr>
<tr>
<td>26</td>
<td>巨人人形の装飾</td>
<td>セペロ・マゲラス(美容師) に9リブラ</td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>名目と金額</td>
<td>巨人形(男)の装身具、項輪とネックレス、巨人形(男)の羽根髪飾など、7リブラ</td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td>馬形・巨人人形衣服</td>
<td>フアン・ボルトー (仕立て職人) に巨人形の衣裳など、17リブラ</td>
</tr>
<tr>
<td>29</td>
<td>支払先と金額</td>
<td>金額</td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td>飲み物・蒸し</td>
<td>金額</td>
</tr>
<tr>
<td>31</td>
<td>支払先と金額</td>
<td>パブロ・クジャスに210リブラ10エルド2ディネロ</td>
</tr>
<tr>
<td>32</td>
<td>金額</td>
<td>342リブラ8エルド6ディネロ</td>
</tr>
<tr>
<td>33</td>
<td>名目と金額</td>
<td>蝦蟹緯組を描いた報酬など、35リブラ2エルド6ディネロ</td>
</tr>
<tr>
<td>34</td>
<td>巨人人形の装飾</td>
<td>マヌエル・アルトスに31リブラ11エルド</td>
</tr>
<tr>
<td>35</td>
<td>愛鱗</td>
<td>金額</td>
</tr>
<tr>
<td>36</td>
<td>新（絹行領に加わる36人の侍祭のための衣装）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>37</td>
<td>新（同じく36人の侍祭のための絹衣裳の細工などの報酬）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>38</td>
<td>新（絹行領で大蠟燭を持った14人の侍祭の報酬と、彼らの靴下と靴の代金）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>39</td>
<td>新（同じく大蠟燭を持った22人の侍祭の報酬と彼らの靴下と靴の代金）</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

| 計 | 1642リブラ9エルド7ディネロ |
| 計 | 1642リブラ16エルド4ディネロ |
### [表3]市参事会の聖体祭への支出の変遷、1776、1781年

<table>
<thead>
<tr>
<th>参照番号</th>
<th>項目 (概要)</th>
<th>1776年からの変更点</th>
<th>変更内容</th>
<th>1781年からの変更点</th>
<th>変更内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>王・使徒・天使 (仮装)</td>
<td></td>
<td></td>
<td>市庁舎の正面飾り，巨人人形 (男女)の頭体の新調，巨人人形 (男)のための棍棒ほか，27リブラ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>松明・ウラリアの旗・聖体現象台</td>
<td>支払先の人物の追加</td>
<td>パブロ・クジャスとライムド・クリオル</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>馬人形・悪魔・牛人形</td>
<td></td>
<td></td>
<td>巨人人形の踊りの報酬 (音楽を含む)，6リブラ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>巨人人形とドラゴン</td>
<td>支払先の人物と名目と金額</td>
<td>ジュゼッペ・アルティミラとその仲間達，巨人人形の踊りの報酬 (音楽を含む)，6リブラ</td>
<td>16リブラ</td>
<td>金額</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>爆竹</td>
<td></td>
<td></td>
<td>市庁舎の正面飾り，10リブラ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>スラブスコ・ルエダ (カテドラル礼拝堂財務管理司祭)</td>
<td></td>
<td>15リブラ</td>
<td>金額</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>音楽</td>
<td>16リブラ</td>
<td>金額</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>フランシスコ・オリベール</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>16リブラ</td>
<td>金額</td>
<td>15リブラ</td>
<td>金額</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>名目と金額</td>
<td>市庁舎の正面飾り，巨人人形 (男女)の頭体の新調，巨人人形 (男)のための棍棒ほか，27リブラ</td>
<td>市庁舎の正面飾り，10リブラ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>名目と金額</td>
<td>市庁舎の正面飾り，巨人人形 (男女)の頭体の新調，巨人人形 (男)のための棍棒ほか，27リブラ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>支払先の人物 (当番のため)</td>
<td>D. ファン・デ・ボンシック，D. ラファエル・デリナス</td>
<td>支払先の人物 (当番のため)</td>
<td>D. カジェナノ・フェリス・デ・モリナス，D. フランシスコ・デ・ノエイ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ジョゼフ・イグナシオ・クラムン (市参事会書記代理)</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ジョセフ・ルファエスタ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ファン・デ・ボンシック，D. ラファエル・デリナス</td>
<td>支払先の人物 (当番のため)</td>
<td>D. カジェナノ・フェリス・デ・モリナス，D. フランシスコ・デ・ノエイ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>名目と金額</td>
<td>市庁舎の正面飾り，巨人人形 (男女)の頭体の新調，巨人人形 (男)のための棍棒ほか，27リブラ</td>
<td>市庁舎の正面飾り，10リブラ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ジョゼフ・イグナシオ・クラムン (市参事会書記代理)</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ジョセフ・ルファエスタ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ファン・デ・ボンシック，D. ラファエル・デリナス</td>
<td>支払先の人物 (当番のため)</td>
<td>D. カジェナノ・フェリス・デ・モリナス，D. フランシスコ・デ・ノエイ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ジョゼフ・イグナシオ・クラムン (市参事会書記代理)</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ジョセフ・ルファエスタ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ファン・デ・ボンシック，D. ラファエル・デリナス</td>
<td>支払先の人物 (当番のため)</td>
<td>D. カジェナノ・フェリス・デ・モリナス，D. フランシスコ・デ・ノエイ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ジョゼフ・イグナシオ・クラムン (市参事会書記代理)</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ジョセフ・ルファエスタ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ファン・デ・ボンシック，D. ラファエル・デリナス</td>
<td>支払先の人物 (当番のため)</td>
<td>D. カジェナノ・フェリス・デ・モリナス，D. フランシスコ・デ・ノエイ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>22</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ジョゼフ・イグナシオ・クラムン (市参事会書記代理)</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ジョセフ・ルファエスタ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>23</td>
<td>支払先の人物</td>
<td>D. ファン・デ・ボンシック，D. ラファエル・デリナス</td>
<td>支払先の人物 (当番のため)</td>
<td>D. カジェナノ・フェリス・デ・モリナス，D. フランシスコ・デ・ノエイ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>表</td>
<td>軍管区司令官へ献上の贈品</td>
<td>金額</td>
<td>金銀製鎖の贈品代金、13リブラ10スエルド</td>
<td>支払先と金額</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>24</td>
<td>同上、花束</td>
<td>支払先と金額</td>
<td>フランシスコ・コミス (布帛) に36リブラ10スエルド、アントニオ・ロカシオには調整代として4リブラ</td>
<td>アントニオ・ロカシオに32リブラ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>25</td>
<td>巨人人形の製造</td>
<td>支払先の人物と名目と金額</td>
<td>エステバン・コレに、巨人人形の製造管理とセッテイ代、多くの羽根飾りなどの細工代として、19リブラ17スエルド6デイネロ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>26</td>
<td>執筆和装</td>
<td>名目と金額</td>
<td>ダイヤ飾り大3個と小7個の代金、7リブラ10スエルド</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>鳥人形・巨人人形衣装</td>
<td>りん</td>
<td>37リブラ10スエルド</td>
<td>75リブラ19スエルド3デイネロ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td>物・果子</td>
<td>金額</td>
<td>22リブラ10スエルド</td>
<td>36リブラ13スエルド6デイネロ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>29</td>
<td>飲み物・果子</td>
<td>金額</td>
<td>174リブラ5スエルド</td>
<td>306リブラ13スエルド</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td>頭巾</td>
<td>支払先と金額</td>
<td>ブルーノ・クストゥラスに299リブラ11スエルド</td>
<td>ジュゼップ・クストゥラスに281リブラ6スエルド</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>31</td>
<td>被服</td>
<td>金額</td>
<td>42リブラ</td>
<td>22リブラ3スエルド</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>32</td>
<td>被服の絵など</td>
<td>金額</td>
<td>9リブラ</td>
<td>5リブラ12スエルド</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>33</td>
<td>巨人人形の製作</td>
<td>支払先の人物と名目と金額</td>
<td>フアン・パブロ・ビラーレ (ベール職人) に巨人人形のための漆の代金として、25リブラ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>34</td>
<td>巨人人形の製作</td>
<td>支払先の人物と名目と金額</td>
<td>フアン・パブロ・ビラーレ (ベール職人) に巨人人形のための漆の代金として、25リブラ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>35</td>
<td>巨人人形の製作</td>
<td>支払先の人物と金額</td>
<td>ミゲル・パルデフリエに575リブラ</td>
<td>5リブラ18スエルド11デイネロ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>36</td>
<td>名目と金額</td>
<td>金額</td>
<td>71リブラ7スエルド3デイネロ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>37</td>
<td>名目と金額</td>
<td>金額</td>
<td>5リブラ12スエルド</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>38</td>
<td>名目と金額</td>
<td>金額</td>
<td>28リブラ12スエルド</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>39</td>
<td>新 (巨人人形の製作のための銀細工を施した革の代金)</td>
<td>名目と金額</td>
<td>ブルーノ・クストゥラス (牛革職人) に10リブラ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>40</td>
<td>新 (巨人人形の製作のための銀細工を施した革の代金)</td>
<td>名目と金額</td>
<td>ブルーノ・クストゥラス (牛革職人) に10リブラ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>41</td>
<td>新 (巨人人形の製作)</td>
<td>名目と金額</td>
<td>571リブラ18スエルド</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>42</td>
<td>新 (ギミンこと)</td>
<td>名目と金額</td>
<td>164リブラ17スエルド</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>43</td>
<td>新 (ギミンこと)</td>
<td>名目と金額</td>
<td>164リブラ16スエルド</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>計</td>
<td>164リブラ17スエルド1デイネロ</td>
<td>164リブラ16スエルド4デイネロ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
しまったと考えられる聖体祭のプロセッションだが、一七六年には巨人人形（男女一対）の胴体や衣装、装飾品などが全て新調されており（項目11、26、27、34、36、41、43）、新しい巨人人形によって聖体祭を盛り上げるよう努力が見られる。表にはあげていないが、翌七七年には巨人が重要を新調し、装飾具のガラス玉などを追加し、七年八年には巨人在座の舞いを追加している。しかししながらこの巨人人形も、七年九年に王権が首都を対象として出た巨人在座やガラス玉がプロセッションその他の宗教行事に出ることの禁止が八〇年に全国に広がると、翌八一年には行列から姿を消して、動物・怪物人形、巨人人形は、これで全て姿を消してしまっている（項目4）。前章で説明した十八世紀後半の聖体祭のプロセッションの要素（王や使徒や天使の扮装）が市参事会での議論ではできるが、場合によっては理不尽であると認められる。

七七年には王や使徒や天使の扮装が市参事会で承認され、これは実現している。市参事会では、巨人在座の舞いを追加した王や使徒の役割の三人の聖職者の費用を含む（項目23）。しかしこの衣装の値段、王や教皇の費用は翌年以降に分けて支払うという苦肉の策が市参事会で承認されたが、結局、別会計から支払う（祭事によって収入は慈善事業や社会事業のために貯蓄され、これにあたる）。市参事会は市参事会と聖堂参事会の双方の代表による委員会で議論が重ねられている。委員会の話し合いの中で、七年に王や使徒や天使の扮装が禁止されて以来、カテドラルの聖職者に代わって扮装が要求されている。
二、「聖体祭」の巨人と動物たちのその後

しかし、なぜなら、「王権や司教による規制は祭りを変化させたのか」という本章のタイトルに掲げた問いに答えようには、カルロス三世の治世以降の「聖体祭」の変化を調査する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、「聖体祭」の巨人在バレンシアのパルセローナ市における歴史と祭り化を合わせて考察する必要があるだろう。そこで、
人々は巨人人形の後を追いかけ、一緒に踊り、大いに盛り上がるようになった。翌日の午後、聖体祭当日のプロセッショングが行われる。良い天気で手伝って、久しぶりの巨人人形を歓迎した。(12) 市民は盛り上がることで、ありのままの見物人も含めて、たいへんな人が出たという。元々の聖体祭当日の午前中にも、巨人人形を楽しむ時間は存在した。

カルロス三世が一八八八年に死亡し、カルロス四世が即位してからのバールセローナは、一八九〇年代末のヨーロッパを襲った飢饉と小麦価格の高騰によって、一八九〇年代末のヨーロッパの興衰を見た。彼が単純に不運か、または革命フランスに対する行方不明のジャン・バプティスト・メーレの事実を表すものなのか、そのような状況下で私たちはいたりずる。

しかし、他の動物、怪物人形はこのとき許可され、そのような状況下で私たちはいたりずる。ドラゴンや悪魔を除き、牛・ラバ・ライオン・観の人形が復活するとは、一八〇〇年にバルセローナ出身の十八世紀の聖者ジュゼッピ・ウリオルがローマから福音列立されたことを祝う行事においてである。カルロス三世は、彼が単純に不運か、または革命フランスに対する行方不明のジャン・バプティスト・メーレの事実を表すものなのか、そのような状況下で私たちはいたりずる。
の前には示してしまったために、この世紀においても諸権力の間で、現代の私たちには計り知られないほどの重要な意味を持っていったことがわかった。こういったコンフリクトは、他の政治的経済的利害関係などが祭りの場を対立的に反映されるのではなく、祭りの要素やプロセッションにおける位置自体が対立の原因であり、重大問題であることをわかった。この対立関係において、旧来の慣習を変革しようとする司教が、教会の上院権力ではなく、王権の上院権力ではないが、王権の下において、革新を求める力が興味深く、また教会の道序の改革が積極的に関与して行こうという王権の姿勢には、カルロス三世の「王権至上主義」（ガリスモ）の特色が現れている。そして、王権による規制が市参事会によっって実に実施されている点を示しているのであり、暴動や対外戦争、あるいは外国勢力による占領下など、各勢力の関係がどのように祭りに反映されるのかという問題については、この時代について、同様の検討を行いっていく必要があるだろう。

第三に、都市住民がどのような祭りに関わり、楽しむ点で市住民がどうなるかということについて、今回分析した『聖体祭』について、多くの住民が外から見た見物人が祭りを「見世物」として楽しんでいたという点が明らかになった。史物の対立を分析するために、ギルドや信心会のような狭いコミュニティで絞った史料調査が必要である。それらを分析するために、ギルドや信心会のような狭いコミュニティで絞った史料調査が必要である。都市住民が何と対決するかを分析するために、ギルドや信心会のような狭いコミュニティで絞った史料調査が必要である。都市住民が何と対決するかを分析するために、ギルドや信心会のような狭いコミュニティで絞った史料調査が必要である。都市住民が何と対決するかを分析するために、ギルドや信心会のような狭いコミュニティで絞った史料調査が必要である。
禁止によって踊り手の技術が失われてしまい、もやもや見物人の魅力ある存在ではなくななるのに対して、民衆がまた新しい祭りに見守る２つの姿勢が形成される。次に、次に上に乗る民衆のピラミッドの層数が高くなることがあり、次に上に乗る民衆のピラミッドの層数が高くなることがあり、次に上に乗る民衆のピラミッドの層数が高くなることがあり、次に上に乗る民衆のピラミッドの層数が高くなることがあり、次に上に乗る民衆のピラミッドの層数が高くなることがあり、次に上に乗る民衆のピラミッドの層数が高くなることがあり、次に上に乗る民衆のピラミッドの層数が高くなることがあり、次に上に乗る民衆のピラミッドの層数が高くなることがある。

(To be continued.)

(London, 2 vols., 1788 and 1789, 3 vols., 1792.)

Townsends Joseph. A journey through Spain in the years 1788 and 1789, 3 vols., 1792.


(C) 2002 Catedra de Estudios de la Cultura y la Educación de la Universidad de Alcalá, Madrid, Spain.


(C) 2002 Catedra de Estudios de la Cultura y la Educación de la Universidad de Alcalá, Madrid, Spain.


(C) 2002 Catedra de Estudios de la Cultura y la Educación de la Universidad de Alcalá, Madrid, Spain.
La plaza de los reyes, Regiones Judiciales y exceptionally significant are.

From the perspective of the historical transformation (1799-1834), Madrid, p. 220-233.

'El reino de los infantes.' Libro: 'La plaza de los reyes, Regiones Judiciales y exceptionally significant are.'

In the course of his work, the author focuses on the extraordinary significance of the plaza, highlighting its historical transformation.

[References and sources are mentioned, but not transcribed.]
(図2) "国鉄700系電車時代" (おおさか) (1998)

(図3) "日本の鉄道史" (上巻) (1988)

(図4) "鉄道百選" (1990)

(図5) "日本の鉄道史" (下巻) (1989)

(図6) "鉄道百選" (1991)

(図7) "日本の鉄道史" (上巻) (1992)

(図8) "鉄道百選" (1993)

(図9) "日本の鉄道史" (下巻) (1994)

(図10) "鉄道百選" (1995)

(図11) "日本の鉄道史" (上巻) (1996)

(図12) "鉄道百選" (1997)

(図13) "日本の鉄道史" (下巻) (1998)

(図14) "鉄道百選" (1999)